

石川県七尾美術館だより

平成18年4月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第45号(春号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



「長谷川等伯展～晩年水墨画の名作～」より

重要文化財

「枯木猿猴図」(部分)

長谷川等伯 天文8年～慶長15年(1539～1610)

桃山時代

各縦155.5×横115.0 (cm)

京都市・龍泉庵蔵

展覧会紹介

平成18年4月29日(土・祝)～
6月25日(日)
休館日については裏表紙をご覧ください

平成18年度春季特別展

「長谷川等伯展」晩年水墨画の大作」

4月29日(土・祝)～5月28日(日)

【会期中無休】

◇第一・第二展示室

桃山時代を代表する画家・長谷川等伯(一五三九～一六一〇)は七尾出身であり、当館では平成八年以降、シリーズとして「長谷川等伯展」を開催し、多くの作品を紹介してきました。

当館開館10周年にあたる昨年は「等伯の最高傑作」「日本水墨画の最高峰」として知られている国宝「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)を特別展示し、大変多くの観覧者で賑わいました。

十一回目の開催となる今回は、等伯が「松林図屏風」を制作したといわれる五十歳代以降に焦点をあて、晩年に制作された水墨画を重要文化財三点を中心に展示します。

また、等伯が若年時「信春」を名乗って活躍した能登時代から上洛後四十歳代頃の作品と、息子や弟子達などの「長谷川派」といわれる絵師達の作品も併せて展示し、幅広く制作された等伯や長谷川派の様々な作品計十五点を展観します。

今回出品される主な水墨画作品と、それぞれにまつわるエピソードを紹介しましょう。

★「腕切りの猿」伝説

：「枯木猿猴図」(京都市・龍泉庵蔵)

画面には親子なのでしょうか、合わせて三匹のテナガザルが描かれています。猿は丸い顔をして

毛はフサフサと柔らかそうで、とても可愛らしい姿ですが、実はこの作品には不思議な伝説があります。

この作品、元々は加賀藩二代藩主前田利長所蔵の枕屏風だったといわれています。『ある夜の事、利長が眠っていると何者かが髪を掴むので、とつさに刀でその腕を切り落とした。灯を点けて見てみると何とそれは屏風から抜け出した絵の猿だった。』という話が伝えられ、人々はこれを「腕切りの猿」と呼ぶようになりました。

その後、「腕切りの猿」を描いた部分は失われましたが、残る部分は軸二幅となつて現在に伝えられています。本作品は等伯の貴重な絵画であると同時に、共に石川県に縁のある等伯と前田家とを結ぶ伝承を持つ重要な史料でもあるのです。



重文「枯木猿猴図」(部分)
長谷川等伯筆 龍泉庵蔵

★等伯の「新たな旅立ち」

：「山水図襖」(京都市・隣華院蔵)

この作品は慶長四年(一五九九)、妙心寺の塔頭隣華院創建にあわせて制作された等伯六十一歳の作品とされ、襖二十面(展示は三面)にわたつて水墨で描かれた山水風景は雄大の一言です。

同じ年、等伯は別の作品に「自雪舟五代長谷川等伯」と記名しています。これは当時から画家のカリスマ的存在であった巨匠・雪舟の系譜を受け継いでいるのは自分だと宣言したもので、等伯のこれまでの画業に裏付けられた自信が感じられます。そしてこの宣言は等伯自身のその後の画家としての変化、新たな展望への契機となったと思われまふ。

本作品はその先駆的存在とされており、等伯が「新たな展開」への心意気を示した記念碑的作品といえるでしょう。



重文「山水図襖」(部分)
長谷川等伯筆 隣華院蔵

★「カラス」へのこだわり

：「烏鷺図屏風」(川村記念美術館蔵)

：「烏梟図屏風」(大阪市立美術館蔵)

カラスと聞いて、真っ黒でずる賢い鳥という良くないイメージを抱く人は多いでしょう。それは昔も同じで、忌み嫌われる鳥として絵画にもあまり描かれる事はありませんでした。

黒い鳥を描く時、よく選ばれていたのが叭々鳥ですが、この鳥は日本では見る事が出来ませんでしたが、中国の画家が描いた作品などを参考に想像で描かれていました。しかし等伯は「実際に見る事が出来るものを描くべき」と、想像の叭々鳥ではなく身近にいたカラスを描きました。本作

品にはそれぞれ獐猛な姿、悪戯っぽい姿でカラスが描かれますが、一方でとても微笑ましい親子の姿で表現されている作品もあります。
恐らく等伯はカラスの様々な姿を観察したのでしよう。そこに等伯の画家としてのこだわりが感じられます。



重文「烏鸛図屏風」(部分)
長谷川等伯筆 川村記念美術館 蔵



「烏梟図屏風」
長谷川等伯筆 大阪市立美術館 蔵

貴重な機会ですので、是非とも本展をぜひ高覧ください。

《出品作品一覧》

※◎…重要文化財、□…石川県指定文化財

△…市町村指定文化財です。

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|--|--|---|--|--|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|--|---------------------------------------|-------------------------------|
| 一、□「善女龍王図」
一幅
長谷川信春(等伯)筆
石川県七尾美術館蔵 | 二、□「涅槃図」
一幅
長谷川信春(等伯)筆
羽咋市・妙成寺蔵 | 三、□「十六羅漢図」
二幅(八幅内)
長谷川信春(等伯)筆
七尾市・靈泉寺蔵 | 四、□「愛宕権現図」
一幅
長谷川信春(等伯)筆
石川県七尾美術館蔵 | 五、□「達磨図」
一幅
長谷川信春(等伯)筆
七尾市・龍門寺蔵 | 六、□「日乗上人像」
一幅
長谷川信春(等伯)筆
羽咋市・妙成寺蔵 | 七、□「陳希夷睡図」
一幅
長谷川信春(等伯)筆
石川県七尾美術館蔵 | 八、◎「枯木猿猴図」
双幅
長谷川等伯筆
京都市・龍泉庵蔵 | 九、◎「山水図襖」
三面(十面内)
長谷川等伯筆
京都市・隣華院蔵 | 十、◎「烏鸛図屏風」
六曲一双
川村記念美術館蔵 | 十一、□「烏梟図屏風」
二曲一隻
大阪府立美術館蔵 | 十二、□「波龍図屏風」
六曲一隻
京都市・本法寺蔵 | 十三、□「波龍図屏風」
六曲一雙
長谷川左近(等重)筆
高野山・金剛三昧院蔵 | 十四、△「涅槃図」
一幅
長谷川派(無分)筆
七尾市・長壽寺蔵 | 十五、△「涅槃図」
一幅
長谷川藤原筆
穴水町・来迎寺蔵 | 参考出品「猿猴図模本」
松村清右衛門筆
個人蔵 |
|---|--|---|---|--|--|---|--|--|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---|--|---------------------------------------|-------------------------------|



県文「涅槃図」
長谷川信春(等伯)筆 妙成寺蔵

「長谷川等伯展」関連行事案内

◆「長谷川等伯展」特別講演会(聴講無料)

日時: 5月7日(日) 午後2時〜

会場: 当館アートホール

講師: 橋本綾子氏(日本美術史研究家)

演題: 「長谷川等伯の変遷」

〜松林図以後を中心に〜

◆「長谷川等伯」オリジナルハイビジョン

等伯の作品をほぼ年代順に紹介した五本の静止画番組と、歴史的流れの中で等伯の生涯を紹介した動画番組一本を、随時ご覧いただけます。

◆「長谷川等伯」子どもなんでもクイズ

本展会期中、恒例の「子どもなんでもクイズ」を実施します。全問正解者の中から抽選で素敵な当館グッズをプレゼントします。

◇共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	700円	600円	3000円
	350円		

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

同時開催

「所蔵品展」

「石川ゆかりの作家たち」
絵画・工芸を中心に」

◆第三展示室

当館は開館以来、地元である「能登地方ゆかりの様々な作家・作品の紹介」を主要テーマに、幅広いジャンルで作品の収集及び展示活動を行ってきました。

現在当館には「池田コレクション」と合わせて計約五〇〇点の作品が所蔵され、能登地方を中心とした石川県にゆかりのある作品が多く含まれています。

本展では当館所蔵品より、近現代の石川県にゆかりのある作家作品を、日本画、洋画、工芸などのジャンルで計二十六点を紹介します。

各技法を駆使して制作された多彩な作品をご覧ください。



▲「夕暉」上田珪草



▲「色絵布袋山水人物図硯箱」
初代徳田八十吉



▲「象嵌雉香炉」高橋介州



◀「バレリーナ」八野田博

※本展は「長谷川等伯展」と共通料金です。

「第62回現代美術展 七尾展」

6月2日(金)～25日(日)

◆第一・第二・第三展示室

「現代美術展」は石川県下で最大規模を誇る公募展です。その歴史も古く、戦後間もない昭和二十年十月に「美術文化の向上による新日本建設への寄与」をスローガンとし、記念すべき第一回展が開催されました。以後、毎年継続され今回で六十二回目となります。

当展は県内在住の文化功労者、日本芸術院会員や重要無形文化財保持者(人間国宝)を筆頭とした、現代の美術界を牽引する作家作品をはじめ、これから更なる制作活動をしていこうという新進気鋭の作家まで、幅広い層から出品・応募されています。展示は出品委嘱作家作品に加え、入選率五〇パーセントという厳しい審査を経た作品、合わせて約千点が展示されます。

これだけの作品を一堂に鑑賞できる機会は貴重であり、現在の石川県における美術の流れを展観する絶好の機会といえるでしょう。

七尾展は昭和二十一年六月の第二回展が開催された後は、平成

七年四月の当美術館開館を機に、毎年、能登地区関連作家作品を中心に展示し「現代美術展」

の地方展という形で開催され、今年で十二回目を迎えます。

昨年は地元作家の活躍も目覚



昨年の様子

しく、「第61回展七尾展」では金沢展出品作品九八七点の中から、過去最多の二三一点を紹介することができました。今年も「現代美術展」

出品作品の中から、

能登地区(宝達志水町以北)在住者の作品、最高賞・次賞・

委嘱賞受賞作品、能

登地区在住および出身委嘱作家作品、財団法人石

川県美術文化協会役員の作品を選抜し、日本画・

洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門で約二百点を展示予定です。

を展示予定です。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	3500円	5000円	4000円
	3000円		3000円

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

市民ギャラリー展覧会案内

猿にはじまり…狂言の美

4月11日(火)～16日(日)

但し、初日は10時から

最終日は午後4時まで

『鞍猿』(うつばさる)で初舞台を踏む狂言の修行。

掛軸・彫刻など美術品の題材ともなった身近な古典芸能・狂言。『猿』をテーマに加賀藩お抱え狂言師・三宅藤九郎家ゆかりの名品を全国初公開。

入場料 無料

主催 能登狂言教室

連絡先 ☎〇九〇(八〇二六)二八一〇



昨年の様子

アートホール催し物案内

ファミリーコンサート

4月16日(日) 開演 午後1時

ひびき会(ピアノ)・琴絵会(大正琴)・洋三
会(三味線)の合同発表会です。二年に一度のコン
サートなので、幼児から高齢者まで、はりきつ
ていますから、どうぞどうぞ温かくおきき下さい。

入場料 無料

主催 ひびき会・琴絵会・洋三会

連絡先 川崎 幸子 ☎〇七六七(五二) 四六五七

第27回 等伯会定期総会&等伯まつり

4月28日(金)

開演 総会 午後1時
セレモニー 午後1時30分

定期総会

今年度の事業計画・予算などを話し合います。

等伯顕彰セレモニー

箏尺八の演奏・献茶・献歌献句・コーラスなど。

入場料 無料

主催 等伯会

連絡先 等伯会(石川県七尾美術館内)

☎〇七六七(五三) 一五〇〇

狂言わくくじよつぷ 『猿にはじまり…』

5月13日(土) 開演 午後2時

狂言『鞍猿』(うつぼぎ)の『お話し』と『小謡』
を、加賀藩前田家お抱え・女性狂言師として活躍
の三宅藤九郎師が実演、小学生から大人まで、実
際に参加しながら楽しんで学べる狂言ミニ講座。

入場料 無料(※準備品は特になし)
主催 能登狂言教室
連絡先 ☎〇九〇(八〇二六) 二八一〇

ボランティアの部屋へようこそ! Vol.4

開館当初からのボランティア、中村さん。
美術館と一緒に、ボランティア10年目を迎えました。

中村 由実

もう、何年監視ボランティアを続けているのか
わからない私ですが、お手伝いになっっているのか
少々心配しております。しかしながら、悪天候の
中でも来場して下さいのお客様方を見ますと、本当
にありがたく思います。また、お客様から「大
変な仕事ですね!ご苦労様です。良い作品を沢山
見せてもらいました。ありがとうございます。」などとい
ろいろなお声を頂き、私の方がうれしく思っしま
うのです。大勢の方々とのうれしい出会いの数々、
その中には、見知らぬ人、久しく会っていない人、
いつも顔を会わせる人等いろいろですが、美術館
で会うとまた違って見えるのです。不思議です
ね。一緒にボラ



私が
中村です
昨年のボランティア研修旅行

定期ビデオ上映会年間予定

毎回午前11時(上映時間約30分)
入場無料

今年是一年を通し
て、「シリーズ 北
陸の工芸作家 石川
の匠たち」のビデオ
を上映します。

石川県内の文化勲
章受章者、文化功労
者、芸術院会員、人
間国宝の方々にスポ
ットをあて、作家本
人へのインタビュー
を交え、その人と
技・作品を紹介しま
す。

※都合により、上映内容
を変更することがござ
います。ご了承ください。

「シリーズ 北陸の工芸作家 石川の匠たち」

- | | | | |
|----------|--------|---------|--------|
| 4/15(土) | 土火への祈り | 大樋焼十代 | 大樋長左衛門 |
| 5/20(土) | 煌めき | 人間国宝 | 前 史雄 |
| 6/17(土) | 和光 | 人間国宝 | 大場 松魚 |
| 7/15(土) | 炎と土と色 | 文化勲章受章者 | 浅蔵五十吉 |
| 8/19(土) | 光彩 | 日本芸術院会員 | 三谷 吾一 |
| 10/28(土) | 即是色 | 人間国宝三代 | 徳田八十吉 |
| 12/9(土) | 漆が呼ぶ里 | 人間国宝 | 塩多慶四郎 |
| 1/20(土) | 釉下燦々 | 人間国宝 | 吉田 美統 |
| 2/17(土) | 木魂 | 人間国宝 | 川北 良造 |
| 3/24(土) | 響 | 人間国宝 | 魚住 為楽 |



投稿募集

新コーナー『わたしと七尾美術館』に あなたも参加しませんか？

次号の『石川県七尾美術館だより(夏号)』(7月1日発行)に掲載する右記新コーナーへの投稿文を募集します。友の会会員の皆様からみた七尾美術館の魅力や印象に残った展覧会、当館にまつわる思い出などについてお寄せください。(文字数は200字～400字程度。また、写真等があれば一緒にお願いします。)

原稿提出は…郵送かFAX 0767-53-6262 または
Eメール nanabi@city.nanao.shikawa.jp

郵送送り先：〒926-0855 石川県七尾市小丸山台1-1

石川県七尾美術館「わたしと七尾美術館」係まで
住所、氏名、電話番号、会員番号を明記して上記へ送ってください。

★掲載させていただいた方には、お好きな展覧会を無料観覧できる「特別招待券」(2枚)をお送りします。

★なお、応募多数の場合、掲載できないこともあります。また、掲載にあたっては、ご提出いただいた原稿に多少の筆削をさせていただくこともありますのでご了承ください。

★投稿は随時受付いたしますが、美術館だより(夏号)掲載分の締切は平成18年5月31日(当館必着)とさせていただきます。

『わたしと七尾美術館』

このコーナー、第1回目は開館以来10年間継続して友の会に入会してくださっている東さんです。

【私の好きな時空】 会員№15 東 朋子(六水町在住)

陽春の土曜日の午後、七尾美術館は私に心地よい一時を与えてくれます。駐車場から玄関に続くアプローチ、一階のゆとりスペース、等伯の作品の数々、七尾美術館設立の動機になった池田コレクションの物語性のある展示、地元作家の作品など暫しときを忘れ作品を通じて自分と対話できる時空です。過去の企画展で印象に残ったのは、畠山記念館所蔵の茶道具の古伊賀花入銘『からたち』、ピカソ陶芸の世界、北大路魯山人展、現代美術展での地元作家の作品などがありますが、昨年春の等伯の松林図屏風は圧巻でした。期間中三度足を運びましたが、吸い込まれるような構図、墨の濃淡に時間を忘れ見入ってしまいました。この美術館はちょうどいい広さの空間です。今後は体験型の催しや、子供たちが参加できる講座なども開き、能登島ガラス美術館や能登演劇堂などと連携を取りながら、みんなが行ってみたい空間にしていなければ幸いです。

平成18年度 美術館友の会 新特典・催物のご案内

今年の冬は積雪が多かった分、春のおとずれがいつそううれしく感じられますね。

美術館前公園も本格的な春到来を前に、整備してちよびりリニューアル♪ つげ、お茶などの木々が新しく植えられました。お天気の良い日には、散策をしながらお庭の新入生(木?)たちを見つけてみてくださいね。

さて、今年度より『友の会の特典』がさらに増えました。なんと、特別企画展の開会式・内覧会に友の会会員の方を無料でご招待！(会員特別招待券を美術館だより発送時に同封します)

今年度は「長谷川等伯展」「岡本太郎展」「ボロニヤ国際絵本原画展」が対象の展覧会になりますので、お楽しみに！

また、毎年恒例『友の会鑑賞の旅』については、昨年ご参加いただいた皆様からのアンケート結果より、今年も秋に、日帰りのバス旅行を計画しています。(募集要項は、夏号の美術館だよりに掲載します)

このほかにも、列品解説、美術講座なども予定しておりますので、「美術館だより」やその同封文書、案内はがきをご覧になり、ぜひご参加下さい。



今年2月に開催した「列品解説」▲
と美術講座「石膏デッサン」▼の様子



花ざかり！春の特別展

相互割引館の展覧会情報

当館友の会会員証の提示で、各館主催展覧会の観覧料が左記料金に割引されます。(対象は会員証表記の方一名のみとなります)
お出かけするときは、会員証をお忘れなく♪

石川県立美術館 ☎076(231)7580

企画展 県美スペシャル

「広重・北斎・歌麿 UKIYO絵展」

会 期 ◆4/23(日)～5/21(日)

観覧料 ◆一般800円→600円

【石記観覧料でコレクション展も観覧できます】

広重・北斎・歌麿ら一六〇名以上の絵師による、同館浮世絵コレクションから美人画・風景画・役者絵など、約三〇〇点を厳選し紹介。

石川県立歴史博物館 ☎076(262)3236

開館20周年記念展

「加賀百万石への道―戦国から太平へ―」

会 期 ◆4/22(土)～5/28(日)

観覧料 ◆一般650円→520円

【石記観覧料で常設展も観覧できます】

加賀藩ゆかりの甲冑、刀剣などの歴史的・文化的な武具などを展示し『工芸王国石川』の礎ともいえる武装の技の一端を展観する。

能登島ガラス美術館 ☎0767(84)1175

「光で変わる！ガラスのアート」

会 期 ◆4/22(土)～7/17(月)

観覧料 ◆一般800円→700円

所蔵品から様々なガラス作品を展示する。開館15周年を記念してクイズラリーも実施。

石川県輪島漆芸美術館 ☎0768(22)9788

「春・夏・季節を愛でる」

会 期 ◆開催中6/4(日)

観覧料 ◆一般600円→550円

新収蔵品を交え、館蔵品を中心に春から夏の風物を描いた作品を紹介する。

珠洲市立珠洲焼資料館 ☎0768(82)6200

常設展 観覧料 ◆一般310円→210円

平安末期から室町にかけて生産された珠洲焼を展示し、信仰・生活との関わりなども紹介。

石川県七尾美術館交通案内マップ

©Futaba-natsu 2006



◆七尾市のイベント情報◆

花嫁のれん展①

4/29 (土) ~ 5/14 (日)

歴史的建造物が数多く残る一本杉通りに、加賀・能登の庶民生活の風習の中に生まれた「花嫁のれん」が展示される。個性あふれるお店が多く、そぞろ歩きも楽しめる。七尾市産業部観光課 ☎0767-53-8424

青柏祭【国指定重要無形民俗文化財】②

5/3 (水) 夜~5 (金)

大地主神社(山王神社)の春祭りで、能登地区最大の祭礼。高さ14m、重さ20tの日本一大きな山車3台が町中を練り歩く。誰もが山車を曳くことのできる参加型の祭り。七尾市産業部観光課 ☎0767-53-8424

祭りの國 能登の賑い③

6/9 (金) 前夜祭 10 (土) 11 (日) 本祭
能登のキリコ祭りが和倉温泉街に勢揃い。能登よさこい祭りや伝統あふれる個性豊かなキリコが乱舞競演する勇壮な姿は必見。和倉温泉観光協会 ☎0767-62-1555

能登演劇堂④

5/26 (金) 開場18:30 開演19:00
わらび座ミュージカル「棟方志功-炎じゃわめぐー」
指定席 A席 6,000円 B席 5,000円
西川信廣/演出 齋藤雅文/作 朝倉摂/美術
出演/安達和平 ほか
「笑いを誘うところ、シリアスなところ、非常にうまく表現」「志功を支える優しさと力強さを素晴らしい感性で表現され、私は胸

を打たれ、涙がこみあげました」と片岡鶴太郎氏も絶賛!!多彩な板画に表される奇才の板画家・棟方志功の躍動感溢れる舞台。

☎0767-66-2323

石川県能登島ガラス美術館⑤

5/3 (水) ~ 7 (日) 9:00~16:00

「透明おもちゃで遊ぼう」 参加無料

6/17 (土)、18 (日)

「夏に向けてビーズ・アクセサリーを作ろう」

受付時間 10:00~11:30、13:00~15:30

参加費 200円から (高校生以上は要入館料)

☎0767-84-1175

◆七尾市の文化施設・文化財◆

須曾蝦夷穴古墳【国指定史跡】⑥

古墳時代の終わり頃に築かれた有力者の墳墓。朝鮮半島の墳墓に似た横穴式石室(一対)の構造から、能登と朝鮮との交流をうかがうことができる。

蝦夷穴歴史センター ☎0767-85-2022

七尾城址【国指定史跡】⑦

能登の守護大名、畠山氏の居城跡で、上杉謙信に攻め落とされるまで170年間栄え、難攻不落といわれた戦国時代の山城。

七尾城史資料館⑧

中世城下町からの出土品や城主愛用の品などを展示されており、室町から戦国時代に至る武家と庶民の生活の一端を知ることができる。☎0767-53-4215

能登国分寺公園【国指定史跡】⑨

能登国分寺は843年に始まり、仏教の教えの場として栄えた。現在はその姿が復元され、全国有数の史跡公園となっている。

能登国分寺展示館 ☎0767-52-9850

山の寺寺院群と瞑想の道⑩

前田利家が小丸山公園に居城を築いた折、奥能登方面からの防御陣地への転用を目的に、真宗を除く各宗派寺院を配置したのが始まり。畠山氏や長谷川等伯、前田氏ゆかりの寺を含む16ヶ寺が現存。瞑想の道を散策しながら、寺院群を巡ることができる。

◆観光施設◆

七尾フラワーパーク のと蘭ノ国⑪

世界中の蘭を集めた日本海側最大級の栽培温室「蘭遊館」では東洋蘭のコレクションをはじめ、様々な蘭を楽しむことができる。

☎0767-54-0300

のとじま臨海公園水族館⑫

能登半島に生息する魚介類を中心に全国から魚類・生き物を一堂に集める。ペンギンやラッコが出迎え、日本海側随一のイルカプールでは、楽しいイルカショーもある。

☎0767-84-1271

能登食祭市場⑬

能登の鮮度満点な海の幸や名産・工芸品に加え、能登の味覚を楽しめる多彩な食事処がそろる。☎0767-52-7071



これからの展覧会予定



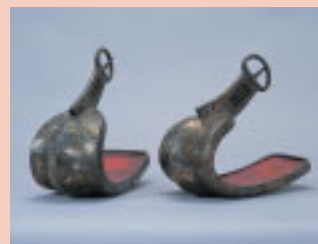
◆第1・2 展示室

「池田コレクション選抜展」

平成18年7月1日(土)～30日(日)

「池田コレクション」は七尾市名誉市民の池田文夫氏（1907～87）が蒐集した美術品です。その内容は岐阜県美濃地方及び石川県にゆかりの茶道具を中心とした計 170点の幅広いジャンルのコレクションで、そこからは氏の作品に対する情熱と高い鑑識眼を感じ取る事が出来ます。

本展では「池田コレクション」より様々な作品を紹介予定です。



「波に兔図紋章散燈」

◆第3 展示室

「モンレー・ジャズフェスティバルポスター展」

平成18年7月25日(火)～30日(日)

平成8年、七尾市の姉妹都市であるモンレー市から、友好の記念として贈られた、モンレー・ジャズ・フェスティバルのポスター（リトグラフ）約50点を一堂に展示します。

ポスターを通して本場ジャズの世界をお楽しみください。

「1992.Jazz Greats」
EARL NEWMAN



◆第1・2・3 展示室

「岡本太郎展－芸術に挑んだ親子・かの子、一平、太郎。－」

平成18年8月4日(金)～9月18日(月・祝) 会期中無休

「芸術は爆発だ」の発言で知られる岡本太郎はエネルギッシュな創作活動を展開し、あらゆるジャンルで革新的な業績を残した戦後日本を代表する芸術家です。

今年は没後10年という節目の年です。本展では、絵画、彫刻、工芸、デザイン、写真などを展示し、改めて太郎芸術を紹介すると共に、父で漫画家の一平と母で歌人・小説家のかの子に関する資料もあわせて紹介します。

また、会期中は特別講演会や映画上映会、子どもワークショップなども予定しています。今なおエネルギーを放ち、生き続ける太郎芸術を是非お楽しみください。



「森の掟」1950年 川崎市岡本太郎美術館 蔵



交通案内

飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分

車……金沢から能登有料道路利用約1時間20分

タクシー……JR七尾駅から約5分

徒歩……JR七尾駅から約20分

市内循環バス……JR七尾駅から西回りに(まりん号) 乗車約6分

ななおコミュニティバス……JR七尾駅から西コースに乗車約10分
(ぐるっと7セブン)

休館日のお知らせ

(4月～6月)

◆4月 3、10、17～28

◆5月 29～31

◆6月 1、5、12、19、26～30

◎次号・第46号（夏号）は7月1日発行予定です。